

約3週間に亘る中間レビューが終わり、長期専門家も交代してプロジェクト実施体制も新しくなりました。今月から1ヶ月の活動をまとめて、月1回MDT通信をお送りします。また、来号からはJICA本部の国内委員会の方にコラムをお願いすることになりました。プロジェクト後半の活動にご期待ください！



6月5日はタイの反人身取引デーです。今年も人身取引対策に関わる関係者が数

百人集まり、社会開発人間安全保障省の大臣が、関係者一丸となってこの問題に取り組むことを決意表明しました。人身取引対策に積極的に取り組んでいる5つの団体（FFW, IOM, ミラー財団、パヴィーナ財団、警察の人身取引対策ユニット）と6人の個人（Kredtrakarn シェルターのラダー所長、TRAFCORD ドゥアンさん、SR Law シリワンさんなど）が表彰されました。7月はバンコク近郊の5県で順次啓発キャンペーンが行われる予定です。

プロジェクト中間レビューの実施（6/1-17）

プロジェクト開始から2年強経過し、プロジェクト中間地点に当たるため、6月1日～17日にかけて、BATWCと合同で中間レビューを実施しました。中間レビューの目的は、今までの成果の確認と分析、また残り3年間の活動の方向性を話し合うことでした。

今回は、被害者保護・地域連携の観点から明治学院大学 齋藤百合子准教授に参団頂き、今後北部パイロット県（チェンライ県、パヤオ県）

で展開を予定している被害者保護及び自立支援活動につき、今後の方向性を決めるうえで有益なインプットを頂きました。

レビューの結果、プロジェクトは予定通りに活動を進め成果を挙げてきていることが確認されました。評価5項目についても、ワークショップの実施や専門家派遣など投入も効率的で、タイは国内法を整備し国を挙げて人身取引対策に取り組んでいるため妥当性が高いなど、全体的により方向に向かっていくことが確認されました。

一方、レビューの結果、今後の活動で取り組まなければならない課題や方向性も明らかになりました。例えば、より被害者中心の視点を取り入れていくためのケースマネジャーの育成や活動の成果をより可視化するための調査を行うなどの提案を頂きました。また、プロジェクト後半で本格的に取り組んでいくパイロット県でのMDT強化に関しては、県レベルのMDTはある程度活発に活動している為、郡レベルやタンボン自治体レベル（郡の下のレベル）のMDT強化も視野に入れていく必要性が確認されました。



中間レビュー最終日の6月17日には、第4回JCC（合同調整委員会）の場でレビュー結果が発表され、両国の合意を示すため、タイ側はプロジェクトダイレクターであるプティパット社会開発福祉局副局長を、日本側はレビュー調査団総括であるJICA 田中由美子国際協力専門員を

署名者とし、ミニッツが交わされ、中間レビューが終了しました。



MDT実施ガイドラインお披露目式(6/14)

MDT実施ガイドラインが完成し、その完成イベントを行いました。

同ガイドラインは新しく人身取引対策の担当となった職員が、人身取引のケースに遭遇した場合、どういった対応をするべきかをプロセスごとに簡単に解説をしているものです。

同ガイドラインは3冊の小さな本になっており、1冊目は人身取引に関する基本情報、2冊目はタイ国内での被害者、3冊目は海外から帰国したタイ人被害者の対応のプロセス及びMDTメンバーの役割について記しています。

同ガイドラインは7つの機関から16人で構成されたワーキンググループを結成し、作成の過程において5回の会合及び2日間のワークショップも行うという徹底した参加型で作成されたものです。



MDT実施ガイドラインの完成式典にはパゴーン局長、米田JICAタイ事務所長、田中由美子専門員等に参加頂きました。

同ガイドラインの作成はプロジェクト前半の主要な活動であり、織田前専門家及び古川専門家にタイ側からお礼の言葉がありました。プロジェクト後半は同ガイドラインを有効活用することが課題となります。

離着任専門家よりご挨拶

立ち上げ準備を含め3年間このプロジェクトに関わらせて頂きました。BATWCと一緒に仕事を進める中、タイ政府とNGOを含む関係者の人身取引対策にかかわる熱意に心打たれました。特に外国人被害者がタイ人被害者と同じ保護サービス受けられる体制になっているのはすばらしいことだと思います。一国だけで人身取引対策に取り組むことは不可能です。色々な国が協力することによって相乗効果がでくると思いますので、引き続き日本の協力を期待したいと思います。任期中は様々な方々にお世話になり支えられてきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます(古川)。

5月31日より、古川専門家の後任として着任しました。業務調整に加え、被害者の社会復帰支援に関わらせて頂きます。今回、中間レビューに参画させて頂き、プロジェクトの全体像を掴めたと共に、タイ側関係者の人身取引対策へのコミットメントに感銘を受けました。前任の織田専門家・古川専門家が築いて下さったタイ側関係者との絆やプロジェクトへの取り組み姿勢を大切にしながら、チーフアドバイザーの百生専門家と協力して、業務に当たらせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます(上田)。